藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 69: 103–104, July 10, 2021

藻類アート情報

# 海藻を用いた観賞用標本「海藻ハーバリウム」の試み

外林 純

最近流行している観賞用の「ハーバリウム」をご存知の方が多いと思います。このハーバリウムは「デザイナーズハーバリウム」とも呼ばれており，きれいなドライフラワーを小さなボトルに入れ，保存性をよくするためにシリコンオイルやミネラルオイルなどの専用のオイルで満たしたものです。本来のハーバリウムの語源である「植物標本」の枠を超えた，お洒落で清涼感のあるインテリアグッズとして，様々な場所で販売され，製作体験会も各地で催されています。

私も 2 年半ほど前に，近所のイベントでハーバリウムの製作を偶然体験しました。私はインテリアグッズとしてのハーバリウムの存在を知りませんでしたが，息子が作りたいというので，制作の様子を興味深く観察しました。きれいなドライフラワーをオイルに漬けているのを見て，お店の方に失礼ながらも「水の中に入れるなら（実際はオイルですが），本来水中にある海藻の方が陸上植物よりも向いているのではないか」と思いました。そこで，お店の方に作り方をよく教えていただき，海藻ハーバリウムを試行錯誤しながら独自に製作してみることにしました。

まずは，ハーバリウム用のオイルとボトルを通販で購入しました。花は乾燥させなければカビが発生するとお店の方に教えていただいたので，台紙に付着しない種類の海藻おしばを剥がし，ハーバリウムオイルにとりあえず漬けてみたところ，案外簡単にできました。ただし，立体的な海藻を押しつぶすのはもったいないと考え，生のままオイル漬けにしてみましたが，本当にすぐにカビが生えたので，乾燥は必須です。現在，立体的に乾燥する方法も考案中ですが，なかなかうまくいきません。

次に，おしば台紙に付着してしまう種類の海藻も材料とするために，台紙から剥がす方法を考えました。これは，台紙の代わりにプラスチック繊維の不織布の上でおしばを作れば簡単に剥がすことができます。そのまま広げることができる種類の海藻は，不織布の上で広げます。きれいに広げることが難しい種類の海藻は，水切りネット等の不織布をプラスチックの下敷きの上に敷き，水に浸してその上で海藻を広げます。水から取り上げて新聞の上に置き，下敷きを抜いてからは，普通の海藻おしばを作る要領と同じです。

完成してからの問題として，色調が海藻の種類によってはすぐに退色してしまうことに直面しました。特に，緑藻は 1 カ月程度で退色してしまいます。そこで，私の勤める会社の上司から「硫酸銅溶液でボイルしてみては？」とアドバイスを受けました。これは，クロロフィルの中心金属のマグネシウムを銅に置換させることで，安定した銅クロロフィルに変えるというものです。実際の方法として，チャック付ポリ袋に緑藻を入れて，海藻が充分に浸る程度に約 1% の硫酸銅水

図 1. ハーバリウム用ボトルにオイルを入れて，乾燥させた海藻を自由に配置します.

図 2. 水槽に入れるとアクアリウムのようになります.

溶液を注ぎ，チャックを閉めて沸騰中の鍋に 10 分程度入れます。その後よく硫酸銅溶液を水で抜いて，海藻おしばにします。この銅置換を半年前に実施した時の作品は，きれいな緑色を未だ保っています。紅藻でも退色がおきますが，クロロフィルが分解されると逆に赤色が鮮やかになっていくため，それほど問題はありません。2 年半経過した作品でも，やや淡くなってきていますが赤色を保っています。褐藻も種類によっては退色しますが，銅置換をすると緑色になってしまいますので，この方法は使えません。退色の程度は種類によって異なりますので，退色しにくい種類の褐藻を使用することを推奨します。退色しにくい種類は黒みをおびた濃い色彩の褐藻が多く，逆に淡い色彩の種類は退色しやすい傾向にあります。アミジグサとサナダグサで例えると，色の濃いサナダグサが適しており，色の淡いアミジグサが退色しやすいというイメージです。いずれにしても，直射日光が当たる場所に置くと，どの色でもより早く退色が進むと思いますので，日当たりのよい場所は避けたほうが無難です。

私は以上のような要領で作品を作り，机の上などに飾っています。最近では容器も 100 円ショップ等で販売され始めてきましたので，簡単に入手できます。また，私は海藻を扱う食品会社に勤めているため，きれいな海藻を比較的入手しやすい立場にあることも幸いです。海藻ハーバリウムを見ながら仕事をすると，非常に癒されてとてもはかどりますし，プレゼントとしても喜ばれています。もう既に製作している方もおられるかもしれませんが，まだの方は案外簡単に作れますので，是非作ってみてはいかがでしょうか？

図 3. いろいろな容器に色とりどりの海藻を入れて，自分だけの海藻ハーバリウムを作ることができます.

（理研食品株式会社）

遊藻子

## カモガシラノリ語源異説

仲田 崇志・鈴木 雅大

カモガシラノリなる紅藻類がある。一部の地域では食用にされるそうだ。この和名には「鴨頭海苔」の字があてられるが，その語源には謎がある。「カモガシラノリの謎―地方食用海藻の魅力―」（北山 2020. 海洋と生物 251: 543–546）で語源が議論されていて，干潮時に見える群落の姿を「鴨の頭」に見立てたとする仮説が紹介されている。「鴨の頭」と言われてみればそう見える気もするが，その名を知らずに鴨の頭（なぜ鴨？）を連想するものなのだろうかと，今一つすっきりしない。

そこで，「鴨頭」に別の意味がないものかと調べてみると，「鴨頭（こうとう・こうと）」なる言葉があるそうだ。本来は「香頭」と書き「鴨頭」は当て字とされるが，これが吸い物などに入れる薬味を意味するらしい（『日本国語大辞典 第 2 版』など）。カモガシラノリは吸い物にも入れるので（陶山 1890.『有用藻譜』；遠藤 1911.『海産植物學』など），「鴨頭にする海苔」から読みを転じてカモガシラノリが生まれた，という語源説はどうだろうか。誰とも知れぬ昔の名付け親に正解を聞くこともできないが，いくぶんか洒落た異説ではなかろうか。

福岡県津屋崎の潮間帯で撮影したカモガシラノリ